

HQR010-P22

会場:コンベンションホール

時間: 5月26日17:15-18:45

全国主要活断層帯調査において得られた炭素同位体年代に基づく古環境の地域比較

Late Quaternary paleo-environment of Japan Islands deduced from the ^{14}C dating for the major active fault survey

吾妻 崇^{1*}

Takashi Azuma^{1*}

¹産総研 活断層・地震研究センター

¹AFERC, AIST

1995年兵庫県南部地震の発生を契機として内陸活断層の調査に関する認識が高まり、全国で110断層を対象とした主要活断層帯の活動履歴調査が実施されてきた。その調査においては炭素同位体年代が、断層活動時期推定のための地層の年代測定に多く利用されている。年代測定される試料の数は、多い場合には一地点のトレンチ調査に対して20点以上の試料の年代を計測することもある。本発表では、活断層調査に得られた炭素同位体年代を黒ボク土、泥炭層、木炭など試料別に分類し、それぞれの形成年代とその地域的分布を明らかにする。

検討に用いたデータは、地震調査研究推進本部の施策の下、自治体および大学・研究機関で実施された活断層調査に関する報告書に掲載されている年代測定値である。年代値については可能な限り元データに近いものを用いるようにし、OxCalを用いて暦年校正を施すこととした。試料の種類に基づく分類を行なう前の予察的な検討においては、関東地方では1,000-2,000年前の年代値が、東北地方では9,000-10,000年前の年代値がそれぞれ多く算出されているといった傾向がみられている。ただし、このような地域的分布の特徴については統計的処理に基づくことを前提としているが、同一地点における年代測定試料数の違い等がある点などの問題が生じる。データ処理については作業中であるが、発表時までには上記問題等を解決して、日本列島の古環境復元に役立つデータを提供したい。

キーワード:活断層調査,炭素同位体年代,古環境

Keywords: active fault survey, carbon isotope dating, paleo-environment